

新明和、AIで見守り

水処理施設用ブロワー

新明和工業は下水や排水処理施設の曝気^{ばうき}に使うターボブロワーの遠隔監視機能を拡充し、人工知能(AI)を活用した「AI見守りサービス」の無償提供を2日に始める。ターボブロワーの運転データをAIで分析し、毎日の点検報告と毎月の稼働状況報告を作成。サービス担当者が確認し、メンテナンスや最適な運用方法を提案する。装置の長寿命化を図り、管理人材が不足するユーザーの課題解決に貢献する。

無償サービス拡充

点検日報や故障予知 ▶▶▶



水処理施設の曝気槽に空気を送るターボブロワー

ターボブロワーは水処理施設の曝気槽に空気を送る装置。今回、2019年に無償提供を始めた同装置用の遠隔監視システム「KN OWTILUS（フイチラス）」の機能を拡充した。同システムは約1年間で50台程度に搭載済み。蓄積した運転データ

タに基づき、AIが顧客の装置ごとの故障予兆、フィルター交換時期の予測、設備運用状態などを分析。毎日の点検と毎月の稼働状況について報告を作成する。サービス担当者はこれらの報告を基に、ユーザーに対して設備のメンテナンスや運用方法の改善などを提案する。

遠隔監視システムには「イベントレコード機能」も追加した。ブロワーの起動や停止といったイベントの前後計3分間の稼働データを最大22項目まで取得可能。イベント発生時の稼働状態を分析して、故障などの原因特定に利用できる。